

井上綾乃ゼミ通信④

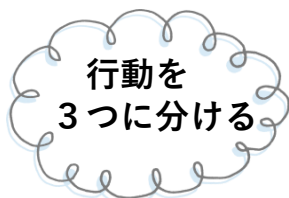
～ ペアレントトレーニングから学ぶ

注目のパワー ～

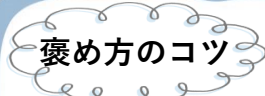
令和4年12月15日(木) 保育センター発行

11/7(月)に第4回井上綾乃ゼミが開催されました。

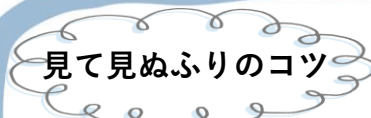
今回は親子の良好な関係を築くためのプログラム、ペアレントトレーニングの中から、「注目」について学びました。子どもは注目を得たいために、好ましくない行動を起こすこともあります。大人はその行動にどのように注目をすればよいのか、ペアレントトレーニングをもとに、保育園でも実践できる方法を学びました。



好ましい行動	好ましくない行動	危険、許しがたい行動
ex 思い通りにいかない時、不満を言葉で表す	ex 思い通りにいかない時、やるべきことをやらない	ex 思い通りにいかない時、他の子を叩く
↓	↓	↓
肯定的な注目 褒める、微笑む等	見て見ぬふり	制限を設ける、警告をする

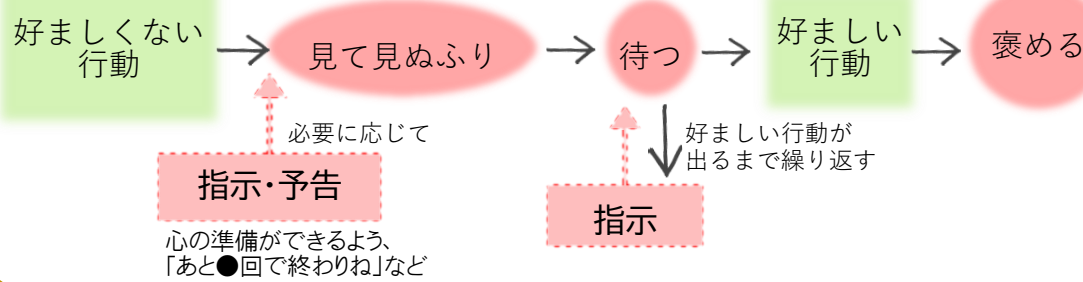
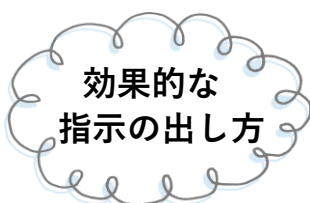


- ★ 完璧を待たず、してほしい行動を始めた時にできるだけ早く。
- ★ 穏やかな表情、声で。近くから、目線を合わせて。
- ★ 具体的に、簡潔に、行動を褒める。



まずは褒められる経験をたくさんしてから！

- ★ 好ましくない行動が始まったら、すぐに見て見ぬふり。
- ★ 子どもの行動に対して表面上は興味がない事を示す。視線を合わせない、体の向きを変える等
- ★ 否定的な注目(注意、叱る、ため息)もしない。
- ★ 好ましくない行動をやめたら、すかさず褒める準備を。



- ★ 正面から、視線を合わせて
- ★ 子どもが選択でき、自分で決めていると感じるような提案
ex) 「着替えたくない！」という子に「上着から脱ぐ？ズボンから脱ぐ？」等。
子どもが選択できない場合は、大人が決めることを冷静に伝える。
最終的に同意に至ったら、褒める。
- ★ 短く具体的に、落ち着いて、言い切る
ex) 「片づけましょう」「座るよ」
- ★ CCQを心掛けて
Calm 穏やかに
Close 子どもに近づいて
Quiet 声のトーンを抑えて静かに
- ★ 「～したら〇〇できる」の取り決め
ごほうび目当てで好ましい行動ができた！(外発的動機付け)の体験を積み重ねる事で、ごほうびがなくても「やらなくてはいけいからやろう！(内発的動機付け)」ができるようになる。

今回の内容を先生方の間で共通認識を持ち対応することが大切という事でしたね。ゼミに参加された先生を中心に、ぜひ園内での対応に活かしていただければと

思います。次回、2/7(火)は最終回。これまでのゼミでの学びを振り返っての発表会となります。どうぞよろしくお願いいたします。

担当:市田